



むらかみ さとる
村上 知さん

(正門市2区)

昭和44年8月30日生

【深川小学校】

※仕事は 5年生の理科と3年生の書道を担当しています。教師になる前は自動車販売の仕事をしていましたが、子供連れのお客さんを見ているうちに、子供たちと接する仕事がしたくなり、教師になることを決めました。今はまだ、要領が悪いので、とても忙しく、子供たちと、接する時間があまり取れないのですが、早くその忙しさを楽しむことができるようになりたいですね。

※趣味は 赴任先が長門市に決まったときに、先輩から魚釣りの道具をもらったのですが、まだ、1度も使っていないので、長門の海で魚釣りをしたいです。

※気をつけていることは 微妙な表情の変化などで子供達がどう感じているのか、何が言いたいのかを、解ってあげられるようにがんばりたいです。

※結婚は いい人がいたらすぐにでもしたいのですが、今のところは、仕事で手いっぱいです。

※どんな街を 気軽にスポーツを楽しめるような施設がもっとたくさんほしいですね。

※自由に一言 赤ちゃんを見るのが好きで、街で赤ちゃんを見かけると、思わずあやしたり頬ずりしたりしてしまうことがあります。怪しい者ではありませんので、よろしくお願いします。

中学校1年
文楽を勉強



「中学生のための文楽教室」が10月9日、中央公民館で市内の中学1年生、約280人が参加して行われました。

これは、「近松祭in長門」の一環事業として行われたもので、日本芸術文化振興会の桜井弘さんが、文楽の歴史や概要を説明、語りの竹本三輪大夫さん、三味線の竹沢弥三郎さんが実演を交えてそれぞれの役割などを解説しました。

いい汗流して
健康チェック



「市民スポ・レク祭&健康づくりのつどい」が10月10日、小河内公園グラウンドを主会場に開催され、たくさんの方が集まりました。参加者はビーチボールバレー、グラウンドゴルフ、ソフトバレーボールで汗を流し、医師による健康相談や健康測定コーナーなどで健康チェックをしていました。

応援団

「気になります長門」



広島県安芸郡

篠田よしこさん

私が「金子みすゞ」の詩を知りましたのは、テレビの民放番組でした。「なんて、やさしいもの悲しい詩」なんだろうと感じました。透明度が高いガラス細工のような作品を、短い生涯の間に残して、神仏の教えが根底にある所も、宮沢賢治と共通する点を今回知らせていただきました。

「みすゞの心」をより多くの人に伝えるために地道な活動を続けられている人々の紹介もさされてきました。人が動くことにより、やさしい風が吹き、広がってゆく。町おこしが心おこしに続いてゆく。行政との連携プレーで長く続けて欲しいと願っています。